

令和元年度 第47回関東中学校卓球大会

競技上の注意・諸連絡

関東中学校体育連盟卓球部

本大会は令和元年6月1日改定の日本卓球ルールとプログラムに掲載された大会要項・競技上の注意、開催地茨城県実行委員会の諸連絡事項、監督会議の合意事項に基づいて行います。

1 マッチと大会使用球について

1 1ポイント（点）制の5ゲームズマッチ（試合）で行い、サービスは2ポイント交代とします。大会使用球は40ミリメートルの（公財）日本卓球協会公認のホワイトボール（プラスチックボール）とします。

2 競技方法について

団体戦は3チームずつを1グループとした11グループに分けた第1ステージ（リーグ戦方式）と各グループの1位チームによる第2位ステージ（トーナメント戦方式）と全国大会出場代表決定戦とで行います。第1ステージは3点先取法で行い、勝敗が決定した後の4番、5番は3ゲームズマッチとします。第2ステージと全国大会出場代表決定戦は3点先取法で行います。個人戦（シングルス）はトーナメント戦方式で行います。

3 競技服装について

競技服装は半袖シャツ、ショーツまたはスカートとします。在籍している中学校名入りのゼッケンを背中の中真ん中に着用してください。団体戦・個人戦ともに少なくとも2種類のユニフォームが必要です。競技服装の主たる色は使用するボールの色と明らかに違う色でなければならないので、白色を基調とするものは着用できません。また、団体戦はチーム全員に同じユニフォームが少なくとも2種類必要です。卓球の公認用具指定業者を除いて、在籍している中学校名以外の文字等がある競技服装は着用できません。外に出すタイプを除いて、半袖シャツはショーツまたはスカートの中に入れて競技してください。

4 ラケット・ラバーについて

ルールに適合したラケット・ラバーでマッチに臨むことは選手自身の責任です。ラバーはラケット本体より大きかったり、小さかったり、そして厚かったり、平坦性に欠けていたりしてはいけません。また、日本卓球協会が公認していない外国製のラケット本体を大会で使用する場合は審判長に事前に使用許可を受けてください。

5 ラバーの張り替えについて

ラバーを張り替える必要が生じたときは日本卓球協会が公認した接着剤で指定された場所で張り替えてください。その場合、競技の進行に支障をきたさないように十分に注意してください。

6 プレーの継続性について

マッチ中、プレーは継続されなければなりません。プレーとプレーの間は時間をとらないよう気をつけてください。間合いをとりすぎるとバッドマナーとして扱います。汗を拭くためのタオルの使用は6ポイントごとのチェンジサービスのときに、サービスが1ポイントごとになったときも6ポイントごとに行い、またファイナルゲームのチェンジエンドのときも許可されます。

7 アドバイスについて

選手がアドバイスを受けることができるのはゲーム間の1分以内の休憩時間やタイムアウトの要求が認められたとき、そして認められた競技の緊急中断のときだけとします。このとき、選手はプレー領域の3m以内にとどまらなければなりません。マッチ開始直前の2分間の練習の後にはアドバイスを受けることはできません。また、この規定時間以外にマッチ中はベンチや観覧席からの声やジェスチャー・サイン等で指示・アドバイスを受けてはいけません。監督やアドバイザーは中学生の指導者として品位と節度ある言動で臨まれることを強く希望します。

8 抗議権について

抗議権は団体戦の場合は監督に、個人戦の場合は選手本人にしかありません。団体戦・個人戦とともにアドバイザーには抗議権がありません。

9 オーダー提出とタイムテーブルについて

団体戦のオーダー提出は遅れないようにしてください。いったん提出したオーダーは変更できません。オーダー交換は競技コートで行います。タイムテーブルの時刻は競技開始時刻とします。競技の進行の状況により、タイムテーブルが変更になる場合もあります。団体戦は複数コートを同時に使用して行う場合があります。あらかじめご了承ください。

10 タイムアウトについて

1マッチに1回、1分以内でタイムアウトを要求することができます。団体戦でベンチ入りしているアドバイザーは複数コートを同時に使用して行う場合、担当しているコートのみタイムアウトを要求することができます。

11 促進ルールについて

促進ルールは両方の選手または組からの要請があった場合やゲーム開始後10分経過しても終了しない場合に適用されます。ただし、両方の選手または組のポイントスコアの合計が少なくとも18ポイントに達した場合には促進ルールは適用されません。次のゲームも自動的に促進ルールは適用されません。

12 マッチ開始直前の練習等について

マッチ開始直前に2分間を限度としてそのマッチで使用するテーブルで練習できますが、正規の休憩時間には練習できません。団体戦で終了の握手・挨拶が済んだ後、相手チームの監督やアドバイザーに対して特別に挨拶に行く必要はありません。

13 サービスについて

正規のサービスでマッチに臨むことは選手自身の責任です。特に、「サービスの開始からボールが打球されるまで」は「手を開き、掌（たなごころ）にボールを静止させる」「エンドラインより後方でプレーイングサーフェイスより高い位置に」「ボールを隠さない」「フリーハンド・フリーアームをボールとネットとの空間の外に出す」「16cm以上」「ほぼ垂直」にボールを投げ上げる」「下降時を打球する」等が肝要となります。

14 入賞について

団体戦・個人戦ともにベスト4以上を入賞とし、閉会式で賞状とメダル等の副賞品を授与します。また、全国大会の代表になった学校・選手には推薦状の授与があります。